

## モンテスキューから観る今の政治

西臼杵支会 代表 谷川 由希

学生の頃から政治について様々な学習をしてきましたが、私が特に印象に残っている人物はフランスの思想家モンテスキューです。モンテスキューと言えば「三権分立」と、それを著した「法の精神」が有名です。皆さんも政治経済や世界史の学習で、一度は耳にしたことがあるかもしれません。一方的な権力によって生まれた圧政を無くすために、権力を三分割にすることで優劣なく相互を監視する。日本では、「国会」「内閣」「裁判所」の三つの機関がその役割を担っています。

約三百年前に説いた一人の学説が現代の社会に最も適しており、政治体制の基盤になっているのは本当に驚きです。

その中のひとつ国の最高機関である国会は、国民により直接選ばれた議員によって構成されています。しかし、日本の衆議院選挙の投票率は50パーセント程度と低迷しており、昨年行われた衆議院議員選挙も約56パーセントでした。

私たち国民が政治の根源ですので、この投票率の低さは由々しき事態だと思います。では、一体なぜここまで投票の意思に結びつくことが出来ないのでしょうか。

私は今の政治に対する不信感ではないかと考えます。特に今は、国も国民も新型コロナウイルスに振り回されています。外出や営業の制限、生活困窮者に向けての給付金など、生きていく上で必要不可欠なものですが、それは本当に正しい政策でしょうか。

日々の生活に困窮するひとり親家庭やパートタイムの労働者、退学・休学する大学生など、こういった人々は大勢います。何が正しくて何が間違っているのかは誰にも分かりません。しかし、少なくとも国民にとっては、これらの政策に焦燥や困惑といった気持ちがあり、「いち早くこの状況から脱出したい」この気持ちばかりが先走り、国民と国の中でギャップが生じているのではないかと考えます。

またコロナ関係以外にも、政治家の不祥事の報道をよく耳にし、それらの原因が未だに不透明なものもあります。これでは国に対する国民の不信感を払拭することは困難です。政治家は「国民の為に政治に携わる者」という認識を改めて持ち、各々で言動を振り返ることが重要ではないでしょうか。

モンテスキューにこのような言葉があります。「もし偉大な人間になりたいのなら、人の上に立つのではなく、人々と同じ場所に立たなければならない」

私は初めてこの言葉に出会った時、「威張ってはならない、権力を振りかざしてはならない」という印象を受けました。

しかし、これを今の政治家と結びつけると、違った印象を受けます。元々国民と同じ立場だった者が選挙によって選出されたのであれば国民のために尽くし、同じ立場となって政治を為さなければならないのではないのでしょうか。

国会が様々な問題を解決し、国民が国の最高機関としての国会に期待が持てるようになれば、自ずと「投票」という権利の行使に向かっていくのではないかと私は考えます。

世界と比べて日本はまだ民主主義のレベルが低く、民主主義後進国と言われています。この状況を変えるには国民と国の考えが一致することが重要です。私も国民の一人として、これからも積極的に政治に参加したいと思います。お互いが信頼し、寄り添えられる未来に向けて、これからの政治に注視していきたいです。